

授業科目名 基礎看護総論

第二看護学科  
1年次 前期  
1単位（15時間）

### I. 授業の目的・目標（ねらい）

- 1) 人間・環境・健康の概念について理解する。
- 2) 看護の対象者を身体的・心理的・社会的な統一体として理解する。
- 3) 看護職の機能と役割を理解する。
- 4) 看護展開の基本的要素を理解する。

### II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	看護の基本となる概念 看護学の構成	講義	
2	看護の基本概念① 人間、環境、健康	グループワーク	
3	看護の基本概念② 人間、環境、健康		
4	看護の基本概念③ 人間、環境、健康		
5	看護における倫理、法的側面	講義・演習	
6	看護ケアの基本的役割・基盤となる思考過程		
7	保健・医療・福祉システムにおける看護の役割と機能		
8	看護の展開と継続性 看護ケアのマネジメント		

### III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版  
フローレンス・ナイティンゲール著 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会  
ヴァージニア・ヘンダーソン著 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会  
よくわかる看護職の倫理綱領 照林社 第3版

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 基礎看護方法論 I - 1

第二看護学科  
1年次 前期  
1単位 (30時間)

### I. 授業の目的・目標 (ねらい)

- 1) 技術の概念が理解できる。
- 2) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。
- 3) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 4) 原理原則を踏まえ対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 5) 看護に必要な態度について深く考えられる。
- 6) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

### II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	安全・安楽とは 医療事故	講義	
2	安楽の援助 褥法 部分浴	演習	
3	清潔の意義・衣生活の意義	講義・演習	
4	臥床患者の全身清拭・寝衣交換①	講義・演習	
5	臥床患者の全身清拭・寝衣交換②	講義・演習	
6	臥床患者の全身清拭・寝衣交換③	演習	
7	臥床患者の洗髪	演習	
8	臥床患者の洗髪	講義	
9	臥床患者の洗髪	講義・演習	
10	環境の意義	講義・演習	
11	臥床患者のリネン交換① 演習	講義・演習	
12	臥床患者のリネン交換② 演習	講義・演習	
13	活動・休息 ボディメカニクス 体位変換	講義・演習	
14	活動・休息 移乗と移送	講義	
15	活動・休息 休息と睡眠	講義・演習	

### III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ②基礎看護技術 I メディカ出版  
ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術 II メディカ出版  
任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験、提出物、参加状況  
\*筆記試験・技術試験両方合格することで、単位修得とする。

### V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習 I を履修することができない。

## I. 授業の目的・目標 (ねらい)

- 1) 技術の概念が理解できる。
- 2) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。
- 3) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 4) 原理原則を踏まえ対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 5) 看護に必要な態度について深く考えられる。
- 6) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

## II. 授業計画

回	授業内容		講義・演習	備考
1	食事・栄養	食事の援助・栄養アセスメント	講義	
2		食事の援助方法・実施	講義・演習	
3		経管栄養法①	講義・演習	
4		経管栄養法②		
5	排泄	排泄の援助①	講義	
6		排泄の援助②	演習	
7		排泄の援助方法・実施① 床上排泄・浣腸・摘便	講義・演習	
8		排泄の援助方法・実施② 導尿		
9	検査時の看護	検査時の看護	講義・演習	
10		採血		
11	与薬時の看護	与薬時の看護の役割	講義	
12		経口法、直腸内与薬法	講義・演習	
13		注射法① 皮下、筋肉内注射	講義・演習	
14		注射法② 静脈、中心静脈栄養法		
15		注射法③ 輸液、輸血療法		

## III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術 I メディカ出版  
 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術 II メディカ出版  
 任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院

## IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

\*与薬の援助技術 (直腸内与薬、点滴静脈内注射、皮内・皮下・筋肉内・静脈内注射)、

\*食事・栄養 (経鼻・胃チューブの挿入)

\*排泄の援助 (導尿または膀胱内留置カテーテルの挿入、浣腸、摘便の技術)

上記\*の技術は学内演習を必要とする技術のため、欠課の場合補習が必要となる。

## V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習 I を履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論Ⅱ	第二看護学科 1年次 後期 1単位(30時間)
----------------	-------------------------------

### I. 授業の目的・目標 (ねらい)

1) 各経過の特徴を理解できる。 2) 各経過にある対象者の心理を理解できる。 3) 各経過における援助方法を理解できる。 4) 手術療法、化学療法、放射線療法における看護の役割と機能を理解できる。 5) 対象者の症状に応じた援助を理解できる。
--

### II. 授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備考
1	経過別看護	経過別①	急性期、慢性期、終末期 〔危機理論、指導技術 エンゼルケアなど〕	講義
2		経過別②		
3		経過別③		
4	治療別看護	治療別看護とは		講義
5		手術療法①生体侵襲		
6		手術療法②手術前		
7		手術療法③手術中		
8		手術療法④手術後		
9		手術療法⑤低侵襲手術		
10		放射線療法 化学療法		
11	症状別看護	発熱、痛み、浮腫のある患者の看護①		講義
12		発熱、痛み、浮腫のある患者の看護②		
13	医療機器の取り扱い	ME 機器 心電計、パルスオキシメーター 酸素ボンベ、吸引器		講義・演習
14		吸引法①		講義・演習
15		吸引法②		

### III. 使用テキスト・参考文献

任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 第5版 学研 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ②基礎看護技術Ⅰ メディカ出版
---

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況
---------------

授業科目名 基礎看護方法論Ⅳ（フィジカルアセスメント）	第二看護学科 1年次 前期 1単位（30時間）
-----------------------------	-------------------------------

### I. 授業の目的・目標（ねらい）

- 1) フィジカルアセスメントの意義が理解できる。ための基礎的知識を身につける。
- 2) 人体の構造・機能に関する知識をもとにフィジカルアセスメントの根拠となる知識が理解できる。
- 3) 循環系、呼吸系、消化器系、中枢神経系のフィジカルアセスメントが根拠を基に実施できる。
- 4) フィジカルアセスメントの結果、正常・異常の判断ができ、結果を記録、報告できる。
- 5) プライバシーに配慮しながら対象者を尊重した態度でかかわることができる。

### II. 授業計画

回	講義・演習	講義・演習	備考
1	フィジカルアセスメント概論	講義	
2	体温 外皮系のアセスメント	演習	
3	循環系のフィジカルアセスメント①	講義	
4	循環系のフィジカルアセスメント②	演習	
5	循環系のフィジカルアセスメント③	演習	
6	循環系のフィジカルアセスメント④	講義	
7	呼吸器系のフィジカルアセスメント①	演習	
8	呼吸器系のフィジカルアセスメント②	演習	
9	呼吸器系のフィジカルアセスメント③	講義	
10	消化器系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
11	運動系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
12	中枢神経系、感覚器系のフィジカルアセスメント①		
13	中枢神経系、感覚器系のフィジカルアセスメント①		
14	シミュレーション演習①		
15	シミュレーション演習②		

### III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ②基礎看護技術Ⅰ メディカ出版  
 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版  
 古橋洋子他著 患者さんの情報収集ガイドブック 第2版 メヂカルフレンド社  
 山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 医学書院

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験、出席状況、提出物、参加状況  
 ＊筆記試験と技術試験両方合格することで、単位修得とする。

### V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅰを履修することができない。

授業科目名 地域・在宅看護総論 I

(地域の暮らしと健康を守る活動)

第二看護学科

1年次 後期

1単位 (15時間)

### I. 授業のねらい・目標

ねらい

地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で、地域での健康と暮らしを支えるための看護を提供するための基礎的知識を学ぶ。

目 標

- 1) 地域の特徴を知る
- 2) 地域で暮らしている人を知る
- 3) 家族の機能と変遷について知る
- 4) 地域で暮らしている人の健康状態について知る
- 5) 地域で暮らしている人の健康を守る活動を知る

### II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	地域と生活	講義 グループ ワーク	
2	地域と生活		
3	地域と生活		
4	地域と生活まとめ、地域在宅看護の背景		
5	地域・在宅看護の基盤（訪問看護）		
6	在宅療養の場における家族のとらえ方		
7	地域で暮らしている人の健康を守る活動（一次予防）		
8	地域で暮らしている人の健康を守る活動（一次予防）（45分）		

### III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 地域・在宅看護総論Ⅱ (療養する人のくらしと看護活動)	第二看護学科 1年次 後期 1単位 (15時間)
--------------------------------------	--------------------------------

### I. 授業のねらい・目標

ねらい 病気や障害を持つ療養者の誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、社会のしくみを理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。 目 標 1) 地域で療養する人の暮らしを知る 2) 地域で療養する人の健康を守る活動を知る 3) 地域でのケアシステムと保健・医療・福祉の連携について知る 4) 療養する場所の変更への支援を知る
---

### II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	地域で療養する障害者の生活と健康を守る活動	講義 グループ ワーク	
2	地域で療養する小児の生活と健康を守る活動 地域で療養する難病の人の生活		
3	地域で療養する難病の人の健康を守る活動 地域で療養する高齢者の生活		
4	地域で療養する高齢者の健康を守る活動		
5	療養する場所の変更への支援1 (在宅から施設)		
6	療養する場所の変更への支援2 (施設から在宅)		
7	継続看護 (外来看護)		
8	地域で療養する人の健康を守る活動：まとめ (45分)		

### III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メデイカ出版
--

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等
------------

授業科目名 成人看護総論

第二看護学科  
1年次 前期  
1単位(15時間)

### I. 授業のねらい・目標

#### ねらい

成人期にある対象の特徴と現代社会において成人がおかれている状況を知り、健康の維持や健康問題に対する支援について理解する。

#### 目標

- 1) 発達段階と対象をとりまく環境を理解できる。
- 2) 健康と保持増進のための看護について理解できる。
- 3) 対象を看護するときの基本的なアプローチについて理解できる。
- 4) 健康レベルに応じた看護について理解できる。

### II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	成人とは、成人期の特徴／成人をとりまく今日の状況	講義・演習	
2	成人とは、成人期の特徴／成人をとりまく今日の状況 (45分)		
3	健康の保持・増進や疾病の予防に向けた看護 成人保健の動向		
4	急性の状態にある人への看護		
5	生活機能障害のある人への看護		
6	慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護 (成人期にある人の教育的支援)		
7	最期を迎える人への看護		
8	エンド・オブ・ライフ・ケア<end-of-life care>		

### III. 使用テキスト・参考文献

林直子他編 成人看護学 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える  
南江堂  
国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、出席状況



授業科目名 老年看護総論	第二看護学科 1年次 後期 1単位 (15時間)
--------------	--------------------------------

### I. 授業の目的・目標 (ねらい)

目的	加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について理解する。
目標	1) 老年期にある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解できる。 2) 老年期の対象と家族の、健康と生活を知り老年看護の機能と役割が理解できる 3) 人生の最終段階である老年期の「生」や「死」について理解を深めることができる

### II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	高齢者とは① (高齢者の概念)	講義	第7回は45分
2	高齢者とは② (高齢者と家族)		
3	高齢者とは③ (老年看護の機能と役割)		
4	老いの理解① (身体的・心理的・社会的側面)		
5	老いの理解② (高齢者の健康・生きがいについて)		
6	高齢者の社会的背景と保障 (倫理と権利擁護)		
7	高齢者の社会的背景と保障 (保健医療福祉制度)		
8	その人らしく生きることとは		

### III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 老年看護学	医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論	医学書院
参考文献：高齢社会白書	内閣府
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]	臨床看護総論 医学書院
国民衛生の動向	財団法人厚生統計協会編・発行

### IV. 成績評価の方法

筆記試験
------